

## 28. スギ接木の台木品種別生長比較試験

九州林産 松尾安久

### 1. ま え が き

精英樹クローン増殖には接木増殖方法が一般に行われているが、スギの場合使用する台木の品種により生長に差があり、実生苗台木に居接するのが良い結果が得られると言われて居り、挿木苗はあまり使用されていないが赤枯病の事を考えると挿木苗を利用するのが良く接木後の生長が実生台木と比較して差がなければ良いのではないかと思ひ、挿木苗台木で生長の良い品種を見出す目的で本試験を行ない一年日の資料がまとまったので報告する。

### 2. 方 法

試験地は九州電力社有林雨乞岳苗圃で標高700mの火山台地で黒色火山灰土壌である。試験は一般に行なわれている前年床替実生苗台木に居接する方法を対照区とみなし、これに他の処理を組合せる事にした。試験区は乱かい法による3回繰返しとし、1m<sup>2</sup>のプロット42個で1プロットに30本植栽又は挿付を行う様に設計し、前年床替(挿付)居接区は1963年4月20日床替(ヤブクグリ、実生)及びヤブクグリ挿付を行った。

当年床替台木は本年3月6日床替を行った。供試用台木はなるべく均一なものを選び台木個体差によって生じる次後の生長差を少くする様に留意した。

処理の種類はヤブクグリ当年床替、前年床替居接、前年挿付居接の3種アヤスギ、アオスギ当年床替の2種、実生2年生当年床替、3年生前年床替居接の2種計7処理である。

接木は4月13日より17日迄5日間行い熟練者2人(男)に土保護取付作業等のため補助2人(女)を配し、1人1プロット15本づつを接ぎ個人差(技術差)を無くす様にした。接木は割接で接穂はあらかじめ接穂貯蔵して置いた大分県スギ精英樹九林9号及び同6号の2クローンを使用した。

接木終了したものは順次スタレ覆をかけ、6月14日土保護取除き及び結束テープ除去を行い6月29日陽覆取除き、6月30日施肥を行った。肥料は住友森林肥料1号(15.8.8)を1m<sup>2</sup>当り140g撒布した(1本当り約4.7g)。その他の管理としては9月中旬迄に水銀ボルドー液による消毒を8回と、除草を6月中旬8月上旬の2回行った。

### 3. 結果及び考察

生長測定は10月19日接木点より上の伸びの測定によるもので、台木の高さは除いた。当年床替と前年床替及び挿付とでは当年床替が悪く、当年床替のみを比べると実生台木が良く9号55.87cm6号53.52cmで次はヤブクグリで9号46.85cm6号49.26cmで、アオスギ、アヤスギの順でこの2は特に生長が悪く一年で山出しするのは無理ではないかと思われる。

前年床替又は挿付台木に於ては、ヤブクグリ挿木苗を掘起こすことなく居接したものが良い結果になった。即ち9号59.32cm6号61.29cmで実生の9号51.28cm6号60.66cmよりも良く、ヤブクグリは実生当年床替の場合と大差なかった。

### 4. 結 び

本試験結果ではヤブクグリ挿木苗に居接するのが最も良く、然もこの場合は掘取床替の手間が省け、赤枯病に対しても強いため消毒経費の節減等で生産価格が安くなり、今後の精英樹クローン養成に役立つものと思われる。又アオスギ、アヤスギは接木台木としては不適当である事がわかった。

表1 スギ接木台木別処理別生長比較

		10月19日測定							
		cm	10	20	30	40	50	60	70
ヤブクグリ	9号	46.85	[Bar chart showing growth up to ~47cm]						
当年床替	6号	49.26	[Bar chart showing growth up to ~49cm]						
アヤスギ	9号	33.64	[Bar chart showing growth up to ~34cm]						
当年床替	6号	35.22	[Bar chart showing growth up to ~35cm]						
アオスギ	9号	35.29	[Bar chart showing growth up to ~35cm]						
当年床替	6号	40.25	[Bar chart showing growth up to ~40cm]						
実生2年生	9号	55.87	[Bar chart showing growth up to ~56cm]						
当年床替	6号	53.52	[Bar chart showing growth up to ~54cm]						
ヤブクグリ	9号	59.32	[Bar chart showing growth up to ~59cm]						
前年床替居接	6号	61.29	[Bar chart showing growth up to ~61cm]						
ヤブクグリ	9号	51.84	[Bar chart showing growth up to ~52cm]						
前年床替居接	6号	58.76	[Bar chart showing growth up to ~59cm]						
実生3年生	9号	51.28	[Bar chart showing growth up to ~51cm]						
前年床替居接	6号	60.66	[Bar chart showing growth up to ~61cm]						

表 2 スギ品種別台木による接木試験

九林9号

処 理	ブ ロ ッ ク			計	平 均
	1	2	3		
ヤブクグリ当年床替	46.15	55.38	39.01	140.54	46.85
アオスギ当年床替	34.41	34.93	31.58	100.92	33.64
実生2年当年床替	38.18	39.44	28.26	105.88	35.29
ヤブクグリ前年挿付居接	62.01	55.13	50.46	167.60	55.87
ヤブクグリ前年床替居接	57.73	61.95	58.28	177.96	59.32
実生3年前年床替居接	60.53	48.78	46.21	155.52	51.84
	53.41	45.38	55.05	153.84	51.28
計	352.42	340.99	308.85	1,002.26	

表 3 スギ品種別台木による接木試験

九林6号

処 理	ブ ロ ッ ク			計	平 均
	1	2	3		
ヤブクグリ当年床替	51.01	50.33	46.43	147.77	49.26
アオスギ当年床替	42.94	33.66	29.06	105.66	35.22
実生2年当年床替	42.10	43.31	35.33	102.74	40.25
ヤブクグリ前年挿付居接	55.36	55.10	50.11	160.57	53.52
ヤブクグリ前年床替居接	58.36	61.23	64.28	183.87	61.29
実生3年前年床替居接	73.40	48.48	54.41	176.29	58.76
	60.11	59.85	62.01	181.97	60.66
計	383.28	351.96	341.63	1,076.87	—

表 4 分 散 分 析

要 因	自由 度	平 方 和	平 方 平 均	F 値	
ブ ロ ッ ク	2	259.3745	129.6873	4.8884	non sig
誤 差 (a)	1	132.5393	132.5393	4.9959	non sig
	2	53.0587	26.5294	—	
	5	444.9725	—	—	
台 木 品 種	6	3.516.1808	586.0301	**9.8573	
ク ロ ン × 台 木	1×6	214.0411	35.6735	1.4401	non sig
誤 差 (b)	24	594.5127	24.7714	—	
全 体	41	4.769.7071	—	—	

## 29. 崩平山におけるスギ、カラマツ幼令林成長調査

九州林産株式会社 井 五 郎  
東 島 司

### 1. ま え が き

九州電力社有林は大正12年より標高900m以上の高寒乾燥地にカラマツを植栽して参りましたが、偶九重山崩平山の山裾で土地環境が略同じ所にスギ、ヒノキを隣り合せに植栽しているので其の生長過程につき昭和35年10月に第1回の調査を行い今回第2回目の継続調査を行いましたので其の結果を報告します。

### 2. 調査地の概要

調査箇所は九州電力社有林38林班む小班(大分県玖

珠郡九重町大字田野)でマツ不成績林の伐跡地に植林した第2次人工造林地であり標高900~920m方位北西傾斜20度、基岩角閃安山岩、地位1等地、平均気温13.5°C最高30°C年間降雨量2,600mm表土は火山灰性黒色土壌で林床植生はススキ、ネザサ、コナラ、ニワトコ、ノリウツギ等が優勢であります。調査したスギカラマツは夫々12年生でスギは大分県産ヤブクグリ挿木苗による造林でカラマツは長野県産八ヶ岳系統の苗をha当3,000本正方形植に植栽した林分であります。